

## ◆ 用語解説

用語	解説
AI	Artificial Intelligence の略で、人工知能を意味する。コンピュータを使って、学習・推論・判断など人間の知能のはたらきを人工的に実現するための技術。
DGPS	正確な位置がわかっている基準局から送信される補正データを利用して衛星測位システムの精度を向上させるシステム。日本では、静止衛星であるひまわり 6 号から位置補正情報を利用することが可能。精度は数 10 cm～数 m。
DO	Dissolved Oxygen の略で、溶存酸素（水中に含まれる酸素）のこと。水質汚濁を示す基準の一つであり、数値が低いほど水質が悪いとされる。
GPS	Global Positioning System の略で、人工衛星を使って現在地情報を測定するシステム。
GNSS（全球測位衛星システム）	衛星を用いた測位システムの総称。GPS は米軍が開発したもので、他にもロシアの GLONASS、ヨーロッパの GALILEO などがあり、GNSS とはそれらを含む総称。
ICT	Information Communication Technology の略で、情報通信技術のこと。クラウド型生産管理システムなど、インターネットを利用して情報を共有する技術などが存在。
LPWA	Low Power Wide Area の略。通信速度は携帯電話システムと比較して低速なものの、省電力であり、広域での通信が可能。
pH	水溶液の酸性、アルカリ性の程度を表す単位。
RTK-GNSS	地上に設置した基準局から発信する補正データまたは国土地理院が設置した電子基準点網から生成される補正情報を利用して、衛星測位システムの精度を向上させるシステム。精度は数 cm。
TMR	Total Mixed Ration の略で、粗飼料と濃厚飼料を混ぜ合わせた混合飼料のこと。
あすなる農業塾	指導農業士等の先進農家のもとで、実践技術や経営戦略、流通販売等のノウハウを取得しつつ、関係機関と連携し就農に向けた農地の確保等を支援する県独自の就農準備研修。
ウェアラブル端末	スマートフォンのように端末を携帯するタイプのものではなく、身に付けるタイプの端末。本計画では、メガネ型のスマートグラスや、手に装着し果実を触ることで食感を計測できる端末。

用語	解説
基幹的農業従事者	個人（世帯）で事業を行う経営体で、15歳以上の世帯員のうちふだん仕事として主に自営農業に従事している者。
クラウドサーバー	クラウドは、インターネットを使用できる環境があれば、どこからでも必要な時に利用できるサービスであり、クラウドサーバーとは、クラウド上にあるデータの保管および管理を行うコンピュータのこと。サーバー内のデータを複数人で共有することも可能であり、お互い離れた場所においても、作業情報等をシェアすることが可能。
自動運転レベル	<p>レベル1 使用者が搭乗した状態での自動化</p> <p>レベル2 ほ場内やほ場周辺からの使用者による監視下での無人状態での自動走行</p> <p>レベル3 遠隔監視下での無人状態での自動走行</p>
集落営農	集落などの地縁的まとまりのある一定の地域内の農家が、農地の保全と地域農業の維持・発展を図ることを目的に、農業生産活動の共同化や役割分担を行う合理的で効率的な営農システム。
スマートグラス	<p>メガネ型のウェアラブル端末で、実際に見ている光景に情報を重ねて表示するディスプレイを通じて遠隔地と情報の送受信や画面共有、通話等ができる機器。</p> <p>スマートグラスを着用した生産者の視野を配信し、普及指導員、市町村、JA担当者、熟練農業者との遠隔指導に活用することが可能。</p>
スマート農業実証農場	農業者のほ場において生産から出荷までの一貫したスマート農業技術体系を組み入れた省力化等の導入効果の実証や、産地においてデータに基づく最適な栽培体系の構築に向けた実証を行う農場。国事業「スマート農業実証プロジェクト」などを活用。
センシング技術	センサー（感知器）等を使用して、様々な情報を計測・数値化する技術の総称。
デジタル・トランスフォーメーション（DX）	組織や企業が、外部環境（顧客、市場、社会）の大きな変化に対応し、デジタル技術を活用して従来の働き方、文化、組織の変革をけん引しながら、新たな業務モデルやサービスを生み出し、インターネット（デジタル）とリアル（アナログ）の両面で、利用者体験の向上を図ること。
ドローン情報基盤システム2.0	無人航空機の各種手続きをオンラインで行うことができるシステム。通称：DIPS2.0
農業経営体数	農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数等が特定の規模以上で事業を行う者。

用語	解説
バイタルセンサー	体温などの生体情報を収集するためのセンサ。本計画では、牛の胃の中にセンサを入れ、体温などの情報を自動計測し、病気や発情等の状況を管理するもの。
フィッシュポンプ	魚を水とともに吸いあげて移送する装置。
ビッグデータ	I C T等により生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量のデータ。肥料散布量、農薬使用量、収量等の栽培データや温度、湿度等の気象データなど。
遊漁承認証	漁業権が設定されている河川等で漁業協同組合に属さない者が釣りなどをする際に、遊漁料を支払って購入する証票。